気象庁震度階

気象庁震度階級と参考事項 (1978) は日本で使われている震度階で，諸外国では別の震度階が使われている．説明欄の数字は地動の加速度で，単位はガル (cm/s^2)．この加速度は正式には震度階級にはないが参考のために記した．

出典：理科年表 (1991 版)

気象庁震度階級 (1949)		参考事項 (1978)
階級	説　　明	
0	無感．人体に感じないで地震計に記録される程度．(0.8 以下)	吊り下げ物のわずかにゆれるのが目視されたり，カタカタと音がきこえても，体にゆれを感じなければ無感である．
I	微震．静止している人や，特に地震に注意深い人だけに感ずる程度の地震．(0.8 ò 2.5)	静かにしている場合にゆれをわずかに感じ，その時間も長くない．立っていては感じない場合が多い．
II	軽震．大ぜいの人に感ずる程度のもので，戸障子がわずかに動くのがわかる程度の地震．(2.5 ò 8.0)	吊り下げ物の動くのがわかり，立っていてもゆれをわずかに感じるが，動いていてる場合にはほとんど感じない．眠っていても目をさますことがある．
III	弱震．家屋がゆれ，戸障子がガタガタと鳴動し，電灯のようなつり下げ物は相当ゆれ，器内の水面の動くのがわかる程度の地震．(8.0 ò 25)	ちょっと驚くほどに感じ，眠っている人も目をさますが，戸外に飛び出すまでもないし，恐怖感はない．戸外にいる人もかなりの人に感じるが，歩いている場合感じない人もいる．
IV	中震．家屋の動揺が激しく，すわりの悪い花びんなどは倒れ，器内の水はあふれ出る．また，歩いている人にも感じられ，多くの人は戸外に飛び出す程度の地震．(25 ò 80)	眠っている人は飛び起き，恐怖感を覚える．電柱･立木などのゆれるのがわかる．一般の家屋の瓦がずれるのがあってもまだ被害らしいものはでない．軽い目まいを覚える．
V	強震．壁に割れ目が入り，墓石・石どうろうが倒れたり，煙突・石垣などが破損する程度の地震．(80 ò 250)	立っていることはかなりむずかしい．一般家屋に軽微な被害が出はじめる．軟弱な地盤では割れたりくずれたりする．すわりの悪い家具は倒れる．
VI	烈震．家屋の倒壊は 30%以下で，山くずれが起き，地割れを生じ，多くの人が立っていることができない程度の地震．(250 ò 400)	歩行はむずかしく，はわないと動けない．
VII	激震．家屋の倒壊が 30%以上に及び，山くずれ，地割れ，断層などが生じる．(400 以上)	